

指示表現と縮約

—「そりゃ（あ）」と「それは」の比較から—

小川 典子（京都大学大学院 / 日本学術振興会）

norikogawa@gmail.com

1. はじめに—現象の確認

■本発表の考察対象

現代日本語の指示表現「それは」とその縮約形「そりゃ（あ）」¹（以下「そりゃ」）

「それは」：ソ系指示詞を含む「それ」に主題や対比を表す助詞「は」が付いたもの

「そりゃ」：「それは」の「re+wa → rya」という音韻融合で生じたもの（川瀬 1992）

→これらの表現は置き換え可能なものとして扱われることが多い（cf. 八木 2006; 2007）

- (1) 空襲中東京の家で彼女が火に囲まれて危く助かった話を聞き、「そりゃよかったね」と答えながら、ふとその時彼女が死んでしまえばよかったと思い、私は自分の心に驚いた。（大岡昇平『野火』）
- (2) 「しかし周ちゃまは」と、むっとしたように下田の婆やは口をはさんだ。「それは利発でいらっしゃいますよ。このあいだは台所の横の女中部屋から五十銭銀貨をお持ちになって……」（北杜夫『楡家の人びと』）

しかし、次の例では置き換えが困難

- (3) 《でも、世間の人アンナを攻撃している。それはなぜかしら？ それじゃ、あたしのほうがましだとでもいうのかしら？ そりゃ、あたしには、すくなくとも、自分の愛している夫がいるわ。…》（トルストイ『アンナ・カレーニナ』）
- (4) …刑事は立ち上がった。「おい、待ってくれよ！ 俺は何も——」「通報者の名前を教えるか？」「そ、それは……」と詰まって、「匿名の電話だったんだ、分からねえよ」（赤川次郎『女社長に乾杯！』）

⇒「そりゃ」と「それは」の間には意味面においても明確な違いが存在する

¹ 関西方言では「そら」（e.g. 「そらあかんで」）という言い方もあるが、今回の発表では「そりゃ」で代表させることとし、「そりゃ」と「そら」の（方言やスタイル以外の）違いについては今後の課題とする。

■本発表の目的

「そりゃ」と「それは」を比較することにより、以下のような意味の違いがあることを示す

1. 文の主部になっている「そりゃ」は、述部に話者の感情の表出が見られる場合にのみ使用可能であり、そうでない場合は「それは」しか許されない
2. 文の主部になっていない「そりゃ」は談話標識の機能を持ち、「それは」で置き換えることが困難である

2. 現象の切り分け

■本発表では考察の対象外とする例

- (5) 「へい」と筒抜けの高調子で、亭主帳場へ棒に突立ち、「お方、そりゃ早うせぬかい」女房は澄ましたもので、「美しい聲音やな、何処の？」と聞く。

(泉鏡花『歌行燈・高野聖』)

- (6) 「ほんとうにね、シュレムスカヤ先生はそりゃ熱心でいらっしゃいますの。…」

(谷崎潤一郎『痴人の愛』)

・音韻的特徴

- (1) (3) (4) : LH (L: Low, H: High)
(5) : HL
(6) ((2) も) : LH+全体にプロミネンス

・統語的特徴

- (5) : 聞き手に対する注意喚起等の機能を担う → 間投詞的用法
(6) : 述部を修飾する → 副詞的用法

3. 先行研究

3.1. 川瀬 (1992)

- ・様々な縮約形を観察する中で、「こりゃ」「そりゃ」「ありゃ」を扱っており、「縮約形「こりゃ」「そりゃ」「ありゃ」は、事物のみでなく「こりゃ困った」のように事態・状況等の取り立てにも広く用いられる」(川瀬 1992: 17) ことを指摘

→川瀬が挙げている「こりゃ困った」は「これは困った」としても事態・状況等を取り立てることができ、縮約形とその原形との違いは明らかになっていない

3.2. 庵 (1995)

- ・「ソノN」と「ソレ」の違いを考察する中で、「ソレ」にはモーダルな用法へずれ込んでいると考えられる例が見られることを指摘(この場合、「ソノN」という形式での置き換えは不自然)

(7) A : Nが大麻で捕まったの聞いたか？

B : a. ああ。{それは / その件は} さっきデスクから聞いた。

b. {それは / #その件は} 大変だ / 驚いた / 事件だ。

(*ibid.* (形式を変更して引用))

■ (7b) のモーダルな用法へのずれ込みが見られる「それは」の特徴：

・「述部が話者の感情を表すものである点が関与的」(庵 1995: 636)

・「これは」と縮約形「そりゃ」が使える

(7') A : Nが大麻で捕まったの聞いたか？

B : a. ああ。{#これは / ?そりゃ} さっきデスクから聞いた。

b. {これは / そりゃ} 大変だ / 驚いた / 事件だ。(*ibid.* (形式を変更して引用))

→ (7'b) からは、「そりゃ」もモーダルな用法を持つことが示唆されるが、庵自身は「そりゃ」については何も述べていない

4. 分析

4.1. 分析の方向性

・「話者の感情」という庵の指摘を軸に分析を行う

・文構造の観点から「そりゃ」の用法を2つに分類

(i) 「そりゃ」が文の主部になっている用法 ← 先行研究で指摘されてきた用法

(ii) 「そりゃ」が文の主部になっていない用法

4.2. (i) 「そりゃ」が主部になっている用法

・述部に話者の感情の表出が見られる場合にのみ使用可能

→ 「それは」の一部の用法についての庵 (1995) の指摘は「そりゃ」にも当てはまる

(8) A : パソコンを使いたいなら、図書館に何台か置いてあるよ。

B : a. {それは / そりゃ} 便利だね！

b. {それは / ??そりゃ} 誰でも使えるの？

(9) A : あの有名女優が結婚したんだって！

B : a. {それは / そりゃ} おめでたいね。

b. {それは / ??そりゃ} ガセネタらしいよ。(cf. (7'))

なお、「そりゃ」が自分の発話を受けても容認度は変わらない。

(10) 図書館の中に何台かパソコンが置いてあるんだけど、{それは / ??そりゃ} 誰でも使っているんだよ。

4.3. (ii) 「そりゃ」が主部になっていない用法

- (11) A : 映画、2本も見てきたの？
B : {そりゃ / ??それは} せっかくシネコンに行ったんだから。
(八木 (2006: 158) を一部変更して引用)
- (12) A : 彼のこと、好きなんでしょ？
B : {そりゃ / ??それは} 好きだけど…。
- (13) 「{そりゃあ / ??それは}、イカを焼いたらマムシが寄ってくる²」
(『探偵ナイトスクープ』2010年7月2日放送 (原文は「そりゃあ」))

(11) ~ (13) : 話者が「もちろんである / 当然である」という感情を持っていることが強く感じられる

→ 「もちろんである / 当然である」という感情が「そりゃ」の使用には必要なのでは？

■ 「そりゃ」の使用と「もちろん / 当然」という感情について

→ (14) ~ (16) で検証 ((14) ~ (16) で異なるのはAの発話のみ)

- (14) A : 息子さんが活躍なさって、さぞかし嬉しいでしょう。
B : a. ??そりゃ息子が活躍しても別に嬉しくないよ。
b. そりゃ息子が活躍して嬉しいよ。

(14a) : BはAの予想に反して息子の活躍を嬉しく思っていない。「もちろん / 当然」の感情が存在しないこの例では、「そりゃ」の使用は不自然。

(14b) : BはAの予想通り息子の活躍を嬉しく思っている。「もちろん / 当然」という感情が存在するため、「そりゃ」の使用は自然。

- (15) A : 息子さんが活躍なさっていますが、どう思われますか？
B : a. ??そりゃ息子が活躍しても別に嬉しくないよ。
b. そりゃ息子が活躍して嬉しいよ。

(15a) : Aの発話にはBが嬉しがっているという予想が含まれないにもかかわらず不自然。これは、「親は自分の子どもが活躍すれば嬉しい」という一般的な知識による。つまり、息子の活躍に対する肯定的な態度がBに期待されるにもかかわらず、それが裏切られるため、「そりゃ」の使用が不自然になる。

(15b) : 「親は自分の子どもが活躍すれば嬉しい」という一般的な知識通り、Bは息子の活躍を嬉しく思っている。「もちろん / 当然」という感情が存在するため、「そりゃ」の使用は自然。

² ちなみにこれは事実ではない。

(16) A : 息子さんとは昨年親子の縁を切られたそうですが、最近の息子さんの活躍についてどう思われますか？

B : a. そりゃ息子が活躍しても別に嬉しくないよ。

b. そりゃ息子が活躍して嬉しいよ。

(16a) : 「息子とは縁を切った (ので今は関係ない)」という前提に対する「もちろん / 当然」という態度が表されているため、「そりゃ」の使用は自然。

(16b) : 「親は自分の子どもが活躍すれば嬉しい」という前提に対する「もちろん / 当然」という態度が表されているため、「そりゃ」の使用は自然。

■ (ii) の用法の「それは」

(17) …けれども下の者は、あたしのような下っ端は、人間の中に入れて貰えないのだから。それはあたしは出来のわるい女です。そんなことは重々承知しています。でも少しは人間扱いしてくれたっていいじゃないの。 (北杜夫『楡家の人びと』)

(18) そして作戦を、まず中腰となって突っばるという作戦を、蔵王山に教えてやって頂戴。いいですか、誰からとは言わないで、或る相撲の専門家からの伝言だと言って、この作戦を伝えて頂戴。そうすれば蔵王山は必ず勝ちます。それは勝つのが当たり前ですわ。康三郎さん、それを大至急やって下さい。 (北杜夫『楡家の人びと』)

(19) なぜならば、私たちの周囲で野球のリーダーたちは、ほとんど不良であるか、または不良がかった少年ばかりだったからだ。こんな事を書くと、おれは不良じゃない野球少年だった、と抗議が出るかも知れない。それは確かに真面目な野球少年や、野球部員も少なくなかったらう。しかし、野球の花形選手やボスが、少年達の日常でも、やはりボスである場合が多かった事は否定出来まい。

(五木寛之『風に吹かれて』)

(17) ~ (19) : 「確かに」や「当たり前」といった意味を含む表現が同時に使われている → 「それは」を (ii) の用法として使う場合、文脈的な支えが必要なのではないか

・「そりゃ」の場合、(ii) の用法を保證する文脈的な支えを必要としない

(20) A : 例の件、上手くいってるんだらうね？

B : {そりゃ / それは} …。

「そりゃ」 : 「上手くいっている」ということを含意

「それは」 : 「上手くいっていない」ということを含意

・なお、「そりゃ」が応答詞として自然に用いられ得るのは、先の議論と同じく「もちろん / 当然」という感情が存在する場合のみ

- (21) A : そこんとこどうなってるんだ！
B : {??そりゃ / それは} …。

4.4. 考察

■ (i)、(ii) の用法の比較

- ・ (i) は指示対象が明確だが、(ii) は「そりゃ」が何を指すのか明確ではない
- ・ (ii) の用法では「そりゃ」が動詞の項になっていない

→以上を考え併せると、(ii) の用法では「そりゃ」が本来の指示機能ではなく、談話標識としての機能を担うようになったと考えるのが妥当

⇒ (i) の用法の段階では述部に表出していた話者の感情や態度が、語用論的強化により「そりゃ」という表現自体に付随するようになった主観化の一例

■ 談話標識の「そりゃ」が生じた原因についての仮説

「それは」が縮約されて「そりゃ」となり、助詞「は」が「りゃ」の部分に取り込まれたことで、「は」が持つ主題や対比を表す意味から解放されて述部との関係が曖昧になり、「そりゃ」が別の機能を担うものとして再分析されたのではないか。

5. おわりに

■ まとめ

- ・ 「そりゃ」と「それは」には、(i) 主部になっている用法と (ii) 主部になっていない用法の2種類がある
- ・ それぞれの用法では、「そりゃ」と「それは」で以下のような違いが見られた
 - (i) 主部になっている用法：「それは」と異なり、「そりゃ」には述部における話者の感情の表出という制約がある
 - (ii) 主部になっていない用法：話者の「もちろん / 当然」という感情を表す談話標識として機能する。「それは」は文脈的な支えがないと (ii) の用法として成り立たないのに対し、「そりゃ」は話者の感情・態度が表現自体に付随するようになっており、主観化が見られる。

■ 今後の課題

- ・ 本発表で扱った用法と、本発表では考察の対象外とした間投詞的用法・副詞的用法との関係を歴史的な変遷も含めて明らかにすること
- ・ 指示性という観点からのさらなる考察

参考文献

- 今井晴彦・石川慎一郎. 2006. 「縮約がもたらす構文の意味的・機能的変化—言語コーパスに基づく there is / there's 構文の研究—」, 『神戸大学国際コミュニケーションセンター論集』 3: 15-36.
- 庵 功雄. 1995. 「ソノNとソレ」, 宮島達夫・仁田義雄・(編)『日本語類義表現の文法 (下)』 632-637. 東京: くろしお出版.
- 川瀬生郎. 1992. 「縮約表現と縮約形の文法」, 『東京大学留学生センター紀要』 2: 1-24.
- 近藤泰弘. 1990. 「構文的に見た指示詞の指示対象」, 『日本語学』 9(3): 31-38.
- 近藤泰弘. 1992. 「レ系指示詞の意味論的性格」, 文化言語学編集委員会 (編)『文化言語学 : その提言と建設』 365-376. 東京: 三省堂.
- Langacker, Ronald W. 1987. *Foundations of Cognitive Grammar, vol.1: Descriptive Application*. Stanford, California: Stanford University Press.
- 益岡隆志・田窪行則. 1992. 『基礎日本語文法 (改訂版)』 東京: くろしお出版.
- 上原 聡. 2007. 「認知形態論」, 上原 聡・熊代文子『音韻・形態のメカニズム』 153-209. 東京: 研究社.
- 八木真生. 2006. 「「そりゃそうだ (それはそうだ) の意味機能—「 ϕ そうだ」と比較して—」, 『言葉と文化』 7: 151-163. 名古屋大学.
- 八木真生. 2007. 「「それはない」の意味機能」, 『言葉と文化』 8: 173-185. 名古屋大学.
- 山梨正明. 1986. 『発話行為』 東京: 大修館書店.
- 山梨正明. 1992. 『推論と照応』 東京: くろしお出版.

コーパス

- 『新潮文庫の100冊 CD-ROM版』 1995. 東京: 新潮社.